（別紙2）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1870400247		
法人名	有限会社　ケアライフ光		
事業所名	グループホーム　孫子老		
所在地	福井県小浜市遠敷５７－１３		
自己評価作成日	平成２５年　２　月２５　日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽２丁目３番２２号
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

健康管理に力を入れ、早期発見・早期治療を心がけています。皆さんが生き生きと暮らせるように、、お菓子作りを行い、おやつに食べてもらったり、面会に来られた家族の方にも食べてもらって喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

田畑に囲まれた地域に立地し、入居者の共有空間からは四季の移り変わりが良く見える環境にある。認知症が進行し、自発的な活動が低下している入居者に対し、どのようなことなら興味を持ってもらえるかを考え、お菓子作りに取り組んだり、昼食後に職員が習っているという演歌を披露したりすることで、入居者も歌いだすような流れを工夫したりし、個々の入居者に合わせたケアに取り組んでいる。また、前年度の外部評価で受けた「次のステップに向けて期待したい内容」にも積極的に取り組まれており、ホーム運営の前向きな姿勢がうかがえた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の２/３くらいの
			3. 利用者の１/３くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に１回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
		○	3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
		○	3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の２/３くらいと
			3. 家族の１/３くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の２/３くらいが
		○	3. 職員の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の２/３くらいが
			3. 家族等の１/３くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	第二の古里になるように、いつも笑顔で生きがいのある暮らしが送れるようように手伝いする。	法人理念、地域密着型サービスとしての理念をそれぞれ掲げ、全職員は毎朝朝礼で復唱している。わかりやすい表現の理念であり、職員も良く理解し、その理念を常に念頭に置きケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族の了解を得て、本人も希望すれば、ふれあいサロンに参加している。	近隣の方が野菜を持ってきてることがある。また、出掛けることができる入居者は、地域のふれあいサロンにも参加している。サロンのテーマが認知症の理解の時は、管理者が講師として協力したこともある。	今後さらに積極的に地域の集まりに参加し、その中でホームのＰＲを行うことで、地域との交流が増えることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンの場を借りて、認知症について簡単な話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話を職員に報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には入居者家族、民生委員、老人会長、市職員の参加を得ている。ホームでの困りごとなども相談し、意見を多く出してもらっている。	地域の情報をより多く取り入れ、意見をもらうため、地域からの参加者を増やし、さらに実りある運営推進会議にしていただくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談したい事例が出た場合、健康長寿課の担当者に相談している。	困ったことがあれば、すぐに相談できる関係である。対応もすぐにされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時にその都度話し合い、スタッフ一同理解して取り組んでいる。	一時的に身体拘束をした方もいたが、現在は行っていない。職員は内容について理解し、身体拘束を行わない取り組みを実践している。 外に出たがる方に対しては、見守りを行い、言葉による制限を行わないよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	時々朝礼時に、再確認しスタッフ一同理解して、取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の場で権利擁護に関する制度を学んだが、現在必要とする人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時に、納得のいくように説明している。		
10	⑹	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、利用者代表･家族代表に出席してもらい、意見をもらっている。	入居時に意見や苦情を出せる体制を説明し、家族の面会時に意見を聞いたりしている。意見箱も設置しているが、ほとんど活用されていない。	意見箱の活用方法や他の意見の聞き方を工夫することで、多くの意見が出され、それを反映された運営を行われることを期待する。
11	⑺	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案があれば、良いことと思えば取り入れている。	職員間の話し合いは意見を出しやすい関係である。出された意見も運営に反映されている。また、意見を出すためのノートも作られており、職員はそのノートに意見を記載している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	勤務態度を見て昇給したり、家庭の事情によりその人の希望を聞き入れ、時間の調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修に参加したり、近くで行われる認知症講演会に参加するように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は大切だと思うが、実行できていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人や家族から、十分話を聞かせてもらい、安心して生活してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて話を聞かせてもらい、緊急時の対応･重度化した場合等の対応について説明し、安心して生活してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内で行う関わり方の説明はしているが、他のサービスを利用するケースはない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケーキ作りや作業をする際、年の功だなぁと教わることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出･外泊に協力してもらい、利用者の家族が面会に来られた際、職員と一緒に作ったケーキを召し上がって頂き感激してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆に外出され、仏壇を飾られ、住職にお経をもらわれている。	自宅の畑の草むしりや馴染みの美容室に継続して行くなどの支援をしている。家族の面会が少ない方には、お盆や正月に外出などができるよう、家族に協力を依頼したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同志で、レクリエーションや軽作業をされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られた方の所へも時々面会に行かせてもらったり、亡くなった方のお宅へもお盆にお参りさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝「今日はどのように過ごしたいですか」と担当者に聞いてもらい、希望されたことは実行してもらっている。	毎朝入居者にその日の希望などを聞いている。また訴えがない方は、日々の様子の中で確認し、直接職員に言いにくい思いを持っていないか家族に電話で聞くなどして確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から、今までの生活歴や暮らし方を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2回／1日のバイタルチェックの他、必要時にもチェックし、異常の早期発見に努めている。また、その人に合った脳トレーニングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員間で話し合ってプランに生かしている。	朝礼などの時間を活用し計画・モニタリングについて話し合っている。担当制をとっており、入居者が「活き活きとしてもらうために」どのようなケアを行うと良いかを担当者に紙に書きだしてもらう工夫もしている。	担当制であることを活かし、計画に沿ったケアが行えているかしっかり記録していくことで、さらに良い個別の計画・ケアにつながる事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の日誌に記録し、昼休みや申し送り時に、情報を共有して介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	無理のないように、その人に合ったサービスを提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	人中に出るとこが嫌でなければ、ふれあいサロンに参加して、楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の元へ診察にお連れしている。	入居前からのかかりつけ医に受診できるような体制をとっている。受診時は職員が付き添い状況を確認するようにしている。家族との連携もしっかりとるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	２４時間、看護師在住でありヘルパーと看護師の連絡が密に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時及び１週間後･退院前に主治医と面談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初に重度化した場合に話をさせて頂き、当ホームでの生活が困難となった際には、適した病院の相談員に連絡を取っている。	入居者･家族の希望に合わせ対応している。最期までホームで過ごしたいという希望の方には、主治医と連携しながら看取りも行っている。入居者の状況の変化に応じて、その都度家族･職員で対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、近所の人に参加してもらったり、近隣の人に災害時の救援をお願いしている。	外部評価での意見を受け、災害時地域の協力が得られるよう、近隣を一軒一軒回り協力依頼を行っている。避難訓練も年２回実施し、民生委員や老人会長、近所の方の協力参加もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が本人に伝えるより、家族に言ってもらった方がよさそうな方には、家族を通じてお話してもらっている。	プライドを傷つけないように配慮し、場合によってはホームから直接ではなく家族を通じて伝えてもらうこともしている。朝礼の際にも職員で声のかけ方などを話し合ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、担当の職員が何をして過ごしたいのか希望を聞き、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に無理がかからないように、自分のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院へお連れさせてもらっている。外出時は、化粧をされたり、おしゃれにされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつのお菓子作りを職員と一緒にされている。	食べたい物の希望を聞くようにしている。現在は配膳や調理に関われる入居者はほとんどいないが、状況に合わせて声をかけ、入居者が興味を示すおやつ作りの協力をしてもらったりしている。食材の買い物へは出かけられる方は一緒に行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、お茶を飲まれない方には、スポーツ飲料で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前･毎食後に職員がそばについて、取り組んでいる。水でむせが見られる人には、とろみ水で対応したり、口腔ケア用のスポンジをを使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排尿･排便訴え時、ポータブル移乗を行っている。	入居者の排泄リズムを把握し、合わせて対応している。誘導時もあからさまに声をかけないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂ってもらったり、ヨーグルトを食べたりしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は希望を聞いて、好きな時間にしてもらっている。	入居者の体調や希望に合わせ、入浴回数や時間を決めて介助を行っている。拒否のある方には、入浴時間に限らず、入ろうと思える状況になった時に対応するなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態を把握して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が職員全員に薬に関する説明を行い、誤薬や飲み忘れがないように支援している。また、飲みにくい場合はジャムに混ぜ服用されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合ったことをして頂いたり、レクリエーションを通じて、皆さんの楽しい笑顔が見られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気に応じて散歩に出かけている。また、初詣･お花見･花火大会等、季節を感じてもらえるよう支援している。その他、歌謡ショーにも行かれ笑顔が見られた。	近隣への散歩や希望に合わせた行事等への参加を支援している。重度の方もなるべく出かけられるよう配慮している。近隣にスーパーもあるため、希望する方は買い物に行き、自分の好きなものを買えるよう、支援もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との話し合いで、希望通りにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話してもらっている。個人の携帯電話を持っていただくことも可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や室温に気を付け、ゆったり過ごせるようにしている。	共有空間からは田んぼや山が見え、季節を感じられる明るい環境であり、生活感にもあふれている。前回の外部評価の意見を反映し、移動空間の環境整備も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と洗濯物をたたんだり、新聞たたみをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、なじみの物を持ってきて頂いたり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の居室にはなじみの物が持ち込まれ、心地よく過ごせるような配慮がされている。	プライバシーへの配慮から居室の入口に名札がないが、迷われる方もいるとのことであり、入居者が自分の部屋とわかるような工夫をされることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて取り組んでいる。		